

第17分科会「里山と食」

シンポジウム 「スマイル八街の森で食育を考えよう！」

日時：2006年6月10日（日）10:00～17:00

場所：八街市ちばコープスマイル八街の森（午前）
ちばコープ八街地域センター会議室（午後）

参加者：31名（一般21名、千葉大園芸学部学生10名）



趣旨

「Smile 八街の森」を舞台にして、食のあり方、里山の今後について、参加者の皆さんと共に考えてみたいと思っています。千葉大学園芸学部の学生さんから里山・食についての提案をうけ、若い世代の目線を通して、今日の里山・食をめぐる問題や可能性を捉えなおし、今後の方向性を模索します。

第1部 野外体験「八街の森で遊ぶ、食べる」

八街市ちばコープ スマイル八街の森 10:00～12:30

- ・徒歩で八街の森へ行く
（歩くことで、八街市の状況を体感し、学ぶ。）
- ・八街の森散策と昼食（酒々井町 味の宿特製弁当）



第2部 シンポジウム

ちばコープ八街地域センター会議室 13:00～17:00

活動計画の提案

千葉大学園芸学部学生による「Smile 八街の森」
挨拶：篠山先生（千葉大学園芸学部助教授）

今回フィールドコラボレーションの授業として、里山シンポジウムの場で「八街の森」をどう活用して行くといいか、食育についても考えて行きたいと参加した。



報告「Smile 八街の取り組みについて」

藤崎 忠氏（(有)スマイル八街代表取締役）

提案テーマ1「自然再生—八街の森への提案」

キーワードは、「はぐくむ」、育むものは、「食」「人」「自然」
食一畑・農作業体験など、収穫祭、郷土料理、地元野菜・果物を使った商品開発など。
ものづくり—木工・竹細工教室、林業体験、椎茸作り、炭焼き、案山子作り。
観察—自然観察・星空観察会、図鑑作り、木に名札つける、トロッコを巡らす、自然再生
交流—ふれあい牧場、アスレチック、昔の遊び体験教室。
その他—案内板の設置、駐車場を草原に、バリアフリー。

提案テーマ2「プレーパークを利用した里山と子どもの新たな関係作り」

プレーパークは子どもたちが、自分で遊具をつくったり、泥遊びをしたりと自由に遊ぶことのできる場です。子どもたちは、ここで、自発性、協調性、創造性を養い、年齢の違う友達を作ることが出来ます。

Smile 八街の森には、土壌、木材等たくさんの資材があります。これを使って子どもたちが外で遊びを、満喫できないかと考えました。

提案テーマ3「里山と高齢者・身障者との新たな関係作り：森のバリアフリー整備の促進」

バリアフリーを検討する場合の空間作りで大切なのは、障害者自身がその場で行動したとき阻害される要素が少なく、健常者に近くその空間を楽しむことが出来ることです。

八街の森でも、障害の種類と程度、多様な人が利用することを考慮して計画・提案し、心のバリアフリーを除くと共に、出来る限り自分のことは自分で出来る環境にすることが重要と考えます。

報告要旨

ちばコープの物流跡地 8,000㎡を活用して、農業と消費者を近づける場所としたい。

2週間前に、生産者60余名でこの場所に直売所を開設した。経営者の立場だけでも、生産者の立場だけでも、消費者の立場だけでもいけない、皆をからめながら、お互いが理解でき、わかりあえる関係を作って行きたい。学生さんの力を借りたい。

結論

・プレーパークが興味深かった。何ヶ月に1回といったかたちでやれたらいい。プレーリーダーが必要。自然再生はちばコープの5ヵ年計画でもある。木を植え、育て、切り倒し、利用の循環を創りたい。木太クラブが出来ているので、このグループの力を借りたい。

・八街は新住民が多い。体験農園も募集している。農業体験等は時期が難しい。

・集える場所が欲しい、屋根さえあればいい。昔の人の発掘、直売場は、八街の特徴が欲しい等の意見交換がされ、ぜひこのままで終わらせないで、実践しようとの提案があり、皆の賛同を得た。

まとめ

「食」について語られることは少なかったが、心身を使って里山で遊び、お腹をすかせて地域で採れたものを食べて元気になる。人も、地域の農林業も元気になる。そんな場と人のつながりを作るきっかけ作りが出来た分科会になった。学生さんたちの感性と行動力を周りも支えながらの活動を行ってゆきたい。

